

安全データシート (SDS)

1 化学品及び会社情報

化学品の名称

製品名 瞬間接着剤 ゼリー状

会社情報

会社名 株式会社 MonotaRO
所在地 〒660-0876 兵庫県尼崎市竹谷町 2-183 リベル 3 階
担当者名 商品お問合せ窓口
電話番号 0120-443-509
Fax 番号 0120-289-888
緊急連絡先 所在地と同じ
整理番号 M200624

推奨用途

接着剤

使用上の制限

上記の用途以外の使用はしない。

2 危険有害性の要約

GHS 分類

物理化学的危険性

分類できない

健康に対する有害性

皮膚腐食性／刺激性 区分 2
眼に対する重篤な損傷性／
眼刺激性 区分 1
皮膚感作性 区分 1
特定標的臓器毒性（単回ばく露） 区分 3（気道刺激性）

環境に対する有害性

分類できない

GHS ラベル要素 絵表示



注意喚起語 危険有害性情報

危険
皮膚刺激
アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ
重篤な眼の損傷
呼吸器への刺激のおそれ

注意書き

[安全対策]

容器を密閉しておくこと。
粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーを避けること。
取扱後はよく手を洗うこと。
屋外又は換気の良い場所でだけ使用すること。
汚染された作業衣は作業場から出さないこと。
保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面を着用すること。

[応急処置]

皮膚に付着した場合：多量の水／石けん（鹼）で洗うこと。
吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
直ちに医師に連絡すること。
気分が悪い時は医師に連絡すること。
皮膚刺激が生じた場合：医師の診察／手当てを受けること。
皮膚刺激又は発しん（疹）が生じた場合：医師の診察／手当てを受けること。
汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。

[保管（貯蔵）]

換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。
施錠して保管すること。

[廃棄]

内容物／容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に依頼して廃棄すること。

他の危険有害性 情報なし

重要な徴候及び想定される非常事態の概要

皮膚刺激
アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ
重篤な眼の損傷
呼吸器への刺激のおそれ

3 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別

混合物

組成及び成分情報

化学名又は一般名	CAS 番号	官報公示 整理番号	濃度又は濃度範囲 (wt%)
シアノアクリル酸エチル	7085-85-0	化審法 2-2789	85～95
ポリメタクリル酸メチル	9011-14-7	化審法 6-524	0～1
ヒュームドシリカ	112945-52-5	-	0～10

4 応急措置

ばく露経路による応急措置

吸入した場合
空気の新鮮な場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息すること。気分が悪い時は医師の診察を受けること。

皮膚に付着した場合
ただちに大量の水と石鹼で洗うこと。
汚染された衣類および靴を脱がせること。
再使用する場合は洗濯すること。
症状が続く場合には、医師に連絡すること。

眼に入った場合
水で15～20分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。症状が続く場合には、医師に連絡すること。

飲み込んだ場合
水で口をすすぎ、無理に吐き出させないこと。直ちに医師の診断を受けること。

急性症状の最も重要な徴候症状

皮膚刺激
アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ
重篤な眼の損傷
呼吸器への刺激のおそれ

遅発性症状の最も重要な徴候症状

情報なし

応急措置をする者の保護に必要な注意事項

応急措置をする人は、自己保護に注意を払うこと。
ばく露の可能性がある場合は、推奨される個人用保護具を使用すること。

医師に対する特別な注意事項

対症療法的かつ支援的に処置すること。

5 火災時の措置

適切な消火剤

水噴霧、粉末消火剤、耐アルコール泡消火剤、二酸化炭素を使用する。

使ってはならない消火剤

火災が周辺に広がる恐れがあるため、直接の棒状注水を避ける。

火災時の特有の危険有害性

火災等の場合は、健康へ危険をもたらす刺激性のある化学物質の蒸気などが発生する可能性がある。

特有の消火方法

火災の状況に応じて環境に適した消火手段を使用する。

火元への燃焼源を断ち、消火剤を使用して消火する。

延焼の恐れのないよう水スプレーで周囲のタンク、建物等の冷却をする。

消火活動は風上から行う。

火災場所の周辺には関係者以外の立ち入りを規制する。

危険でなければ火災区域から容器を移動する。

消火活動を行う者の特別な保護具及び予防措置

消火作業の際は、適切な自給式の呼吸器用保護具、眼や皮膚を保護する防護服（耐熱性）を着用する。

6 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

関係者以外の立ち入りを禁止する。

作業者は適切な保護具（「8 ばく露防止及び保護措置」の項を参照）を着用し、眼、皮膚への接触や吸入を避ける。

環境に対する注意事項

周辺環境に影響がある可能性があるため、製品の環境中への流出を避ける。

汚染された洗浄水を保管して処分する。

封じ込め及び浄化の方法及び機材

危険でなければ漏れを止める。

不活性吸収材で吸収させる。

大量の漏れた場合は、堤防または他の適切な封じ込めを行う。

取扱いや保管場所の近傍での飲食の禁止。

漏れたものを吸収したものをポンプ輸送する場合、適切な容器に保管する。

二次災害の防止策

すべての発火源を速やかに取り除く（近傍での喫煙、火花や火炎の禁止）。
排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

7 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策

「8 ばく露防止及び保護措置」に記載の措置を行い、必要に応じて保護具を着用する。

安全取扱注意事項

換気が十分な場合のみ使用すること。

ラベルの指示通りに使用すること。

熱、火花、裸火、高温のもののような着火源から遠ざけること。－禁煙。

容器を接地すること、アースをとること。

防爆型の電気機器、換気装置、照明機器を使用すること。

火花を発生させない工具を使用すること。

静電気放電に対する予防措置を講ずること。

汚染された衣類を再使用する場合には洗濯すること。

漏出を防ぎ廃棄して、環境への放出を最小限に抑えること。

アレルギー反応を起こしやすい人は取り扱ってはならない。

ガス/ヒューム/エアロゾルを吸入しないこと。

接触回避

湿った空気又は湿気（材料が硬化し始めるため）

衛生対策

取扱い後はよく手を洗うこと。

この製品を使用する時に、飲食又は喫煙しないこと。

ガス/煙/エアゾールを吸入しないこと。

保管

技術的対策

保管場所には危険・有害物を貯蔵し、又は取り扱うために必要な照明及び換気の設定を設ける。

静電気放電に対する予防措置を講ずること。

保管の際は施錠をすること。

混触禁止物質

強酸化剤、有機化合物、酸、食品、爆薬、高温、熱

保管条件

直射日光を避け、冷暗所に保管する。高温物を近づけない。

適切なラベルを貼った容器に保管すること。

容器包装材料

破損や漏れの無い密閉可能な容器を使用する。

8 ばく露防止及び保護措置

管理濃度

$E = 3.0 \text{ mg/m}^3$ （遊離けい酸を含有しない場合）（ヒュームドシリカ）

許容濃度（ばく露限界値、生物学的指標）

ACGIH TLV-TWA (2019)

0.2 ppm、1 mg/m³（シアノアクリル酸エチル）

ACGIH TLV-STEL (2019)

1 ppm、5.1 mg/m³（シアノアクリル酸エチル）

日本産業衛生学会（2019）

設定されていない

設備対策

取り扱いの場所の近くに、洗眼および身体洗浄のための設備を設ける。
高温下や、ミストが発生する場合は換気装置を使用する。

保護具

呼吸用保護具	適切な局所排気換気装置が備わっていないか、ばく露評価によりばく露が推奨されていることが示されている場合を除き、呼吸器保護具を使用する。短期ばく露または低公害の場合は呼吸器フィルター装置を使用する。集中的または長時間ばく露する場合は、自給式呼吸器保護具を使用する。
手の保護具	有害物質の濃度や量、作業場所に応じて化学物質から手を保護するための手袋を選択すること。特別な用途の場合は、前述の保護手袋の化学薬品に対する耐性をメーカーに明確にすることを推奨する。
眼及び/又は顔面の保護具	眼に入る恐れがある場合、保護眼鏡やゴーグルを着用する。
皮膚及び身体の保護具	耐薬品性データと局所ばく露の可能性の評価に基づいて、適切な防護服を選択する。 不浸透性の防護服（手袋、エプロン、ブーツなど）を使用することにより、皮膚接触を避ける必要がある。

特別な注意事項

情報なし

9 物理的及び化学的性質

物理状態	固体（ゲル状）
色	無色
臭い	独特の臭い
融点／凝固点	情報なし
沸点又は初留点及び沸騰範囲	> 100°C
可燃性	可燃性
爆発限界及び爆発上限界／可燃限界	該当しない
引火点	89.8°C（セタ密閉式）
自然発火点	該当しない
分解温度	情報なし
pH	7
動粘性率	該当しない
溶解度	水に難溶
n-オクタノール／水分配係数（log値）	情報なし
蒸気圧	情報なし
密度及び/又は相対密度	1.0 g/mL
相対ガス密度	該当しない

粒子特性

情報なし

10 安定性及び反応性

反応性	通常の取扱い条件下では安定である。
化学的安定性	通常取扱い条件下では安定である。
危険有害反応可能性	通常取扱い条件下では危険有害反応を起こさない。
避けるべき条件	湿った空気又は湿気（材料が硬化し始めるため）
混触危険物質	強酸化剤、有機化酸化物、酸、食品、爆薬、高温、熱
危険有害な分解生成物	火災等の場合は、健康へ危険をもたらす刺激性有機蒸気が発生する可能性がある。

11 有害性情報

製品の有害性情報

急性毒性（経口）	情報なし
急性毒性（経皮）	情報なし
急性毒性（吸入）	咳、くしゃみ、鼻汁、頭痛、鼻声、鼻や喉の痛みを引き起こす可能性がある。
皮膚腐食性／刺激性	皮膚刺激、局所的な発赤、腫れ、かゆみ、乾燥を引き起こす可能性がある。
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	深刻な眼の炎症、著しい発赤、腫れ、痛み、涙、角膜の濁り、視力障害を引き起こす可能性がある。
呼吸器感作性又は皮膚感作性	アレルギー性皮膚反応、 発赤、腫れ、かゆみを引き起こす可能性がある。
生殖細胞変異原性	情報なし
発がん性	情報なし
生殖毒性	情報なし
特定標的臓器毒性（単回ばく露）	摂取により、胃刺激、腹痛、胃の不調、吐き気、嘔吐、下痢を引き起こす可能性がある。 吸入により、咳、くしゃみ、鼻汁、頭痛、鼻声、鼻や喉の痛みを引き起こす可能性がある。
特定標的臓器毒性（反復ばく露）	情報なし
誤えん有害性	情報なし

成分の有害性情報

シアノアクリル酸エチル

急性毒性（経口）	ラット LD ₅₀ = 5,000 mg/kg
急性毒性（経皮）	ウサギ LD ₅₀ > 2,000 mg/kg
急性毒性（吸入：ガス）	GHS の定義における液体である。
急性毒性（吸入：蒸気）	データ不足のため分類できない。
急性毒性（吸入：粉じん／ミスト）	ラット 1 時間 LC ₅₀ < 21.11 mg/L（4 時間換算値：< 5.278 mg/L）データ不足のため分類できない。
皮膚腐食性／刺激性	ウサギを用いた皮膚刺激性試験において、本物質の液体を 24 時間適用した結果軽度の紅斑および浮腫（平均スコア 0.83）がみられたとの報告がある。また、ヒトにおいて単回ばく露による皮膚刺激性はみられないとの報

	告がある。なお、本物質は皮膚に対して重度の刺激性を有するとの報告があるが、ばく露時間等の詳細が不明な情報である。
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	ウサギを用いた眼刺激性試験において、本物質を適用した結果、刺激性の平均スコアが発赤 1.75、結膜浮腫 0.5、角膜混濁 0.75、虹彩反応 0.5 であり、症状は7日以内に全て回復したとの報告がある。また、本物質は眼に対して重度の刺激性を有するとの報告があるが、回復性などの詳細は不明である。
呼吸器感作性	本物質を取り扱う職業ばく露において、喘息症状が報告されているが、いずれの評価書も複合ばく露の可能性があることから、本物質によるものであるとは結論していない。また、喘息がアレルギー性あるいは刺激性のどちらの機序によって誘発されるかについて結論できないとしている。
皮膚感作性	本物質を取り扱う職業ばく露において皮膚反応を示した労働者に対するパッチテストにおいて、陽性反応が報告されているが、感作性の結論に足る情報ではないとし、本物質を感作性物質としていない。
生殖細胞変異原性	<i>in vivo</i> では、ラット及びマウスの骨髄細胞を用いた小核試験で陰性、 <i>in vitro</i> では、細菌の復帰突然変異試験で陰性である。
発がん性	国際機関による分類結果もなく、データ不足のため分類できない。
生殖毒性	データ不足のため分類できない。
特定標的臓器毒性（単回ばく露）	本物質は気道刺激性がある。その他、ヒト及び実験動物のデータはない。
特定標的臓器毒性（反復ばく露）	データ不足のため分類できない。
誤えん有害性	データ不足のため分類できない。
ポリメタクリル酸メチル	
急性毒性（経口）	情報なし
急性毒性（経皮）	情報なし
急性毒性（吸入：ガス）	情報なし
急性毒性（吸入：蒸気）	情報なし
急性毒性（吸入：粉じん／ミスト）	情報なし
皮膚腐食性／刺激性	情報なし
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	情報なし
呼吸器感作性	情報なし
皮膚感作性	情報なし
生殖細胞変異原性	情報なし
発がん性	情報なし
生殖毒性	情報なし
特定標的臓器毒性（単回ばく露）	情報なし
特定標的臓器毒性（反復ばく露）	情報なし
誤えん有害性	情報なし

ヒュームドシリカ

急性毒性（経口）	情報なし
急性毒性（経皮）	情報なし
急性毒性（吸入：ガス）	情報なし
急性毒性（吸入：蒸気）	情報なし
急性毒性（吸入：粉じん／ミスト）	情報なし
皮膚腐食性／刺激性	情報なし
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	情報なし
呼吸器感作性	情報なし
皮膚感作性	情報なし
生殖細胞変異原性	情報なし
発がん性	情報なし
生殖毒性	情報なし
特定標的臓器毒性（単回ばく露）	情報なし
特定標的臓器毒性（反復ばく露）	情報なし
誤えん有害性	情報なし

12 環境影響情報

製品の環境影響情報

生態毒性	情報なし
残留性・分解性	情報なし
生体蓄積性	情報なし
土壤中の移動性	情報なし
オゾン層への有害性	該当しない

成分の環境影響情報

シアノアクリル酸エチル

水生環境有害性 短期（急性）	情報なし
水生環境有害性 長期（慢性）	情報なし
残留性・分解性	情報なし
生体蓄積性	情報なし
土壤中の移動性	情報なし
オゾン層への有害性	該当しない

ポリメタクリル酸メチル

水生環境有害性 短期（急性）	情報なし
水生環境有害性 長期（慢性）	情報なし
残留性・分解性	情報なし
生体蓄積性	情報なし
土壤中の移動性	情報なし
オゾン層への有害性	該当しない

ヒュームドシリカ

水生環境有害性	短期（急性）	情報なし
水生環境有害性	長期（慢性）	情報なし
残留性・分解性		情報なし
生体蓄積性		情報なし
土壌中の移動性		情報なし
オゾン層への有害性		該当しない

13 廃棄上の注意

残余廃棄物

廃棄においては、関連法規制ならびに地方自治体の基準に従うこと。
都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、または地方公共団体が廃棄物処理を行っている場合はそこに委託して処理する。

汚染容器及び包装

容器は洗浄してリサイクルするか、関連法規制ならびに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。
空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。
使用後は、穴を開けたり、燃やしたりしないこと。
特に指定が無い場合は、未使用品として廃棄すること。

14 輸送上の注意

国際規制

陸上輸送（ADR/RID の規定に従う）

国連番号	該当しない
品名（国連輸送名）	該当しない
国連分類（輸送における危険有害性クラス）	該当しない
副次危険性	該当しない
容器等級	該当しない

海上輸送（IMO の規定に従う）

国連番号	該当しない
品名（国連輸送名）	該当しない
国連分類（輸送における危険有害性クラス）	該当しない
副次危険性	該当しない
容器等級	該当しない
海洋汚染物質（該当・非該当）	非該当
IBC コード（該当・非該当）	非該当

航空輸送（ICAO/IATAの規定に従う）

国連番号	該当しない
品名（国連輸送名）	該当しない
国連分類（輸送における危険有害性クラス）	該当しない
副次危険性	該当しない
容器等級	該当しない

国内規制

陸上規制情報	消防法、毒物劇物取締法に従う。
海上規制情報	該当しない
海洋汚染物質	該当しない
航空規制情報	該当しない

輸送又は輸送手段に関する特別の安全対策：

輸送に際しては、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。

15 適用法令

該当法令の名称及びその法令に基づく規制に関する情報

化学物質排出把握管理促進法 労働安全衛生法	該当しない 名称等を通知すべき危険物及び有害物（2-シアノアクリル酸エチル）（0.1重量%以上を含有する製剤その他の物） 名称等を表示すべき危険物及び有害物（2-シアノアクリル酸エチル）（1重量%以上を含有する製剤その他の物。運搬・貯蔵中に固体以外の状態にならず、かつ、粉状にならない物であって、令別表第一に掲げる危険物、可燃性の物等爆発又は火災の原因となるおそれのある物並びに皮膚に対して腐食の危険を生じるものでないものを除く。）
消防法 毒物劇物取締法	指定可燃物 可燃性固体 劇物・除外品目（有機シアン化合物／シアノアクリル酸エステル及びこれを含有する製剤）（含製剤）
水質汚濁防止法 下水道法	有害物質（シアン化合物） 水質基準物質（シアン化合物）
外国為替及び外国貿易法	輸出貿易管理令別表第1の16の項（水素、希ガスその他の非金属元素）
じん肺法	法第2条、施行規則第2条別表粉じん作業（シリカ）（粉じん）
土壤汚染対策法	特定有害物質（シアン化合物）

16 その他の情報

参考文献

NITE GHS 分類結果一覧 (2020)

日本産業衛生学会 (2019) 許容濃度等の勧告

ACGIH, American Conference of Governmental Industrial Hygienists (2019) TLVs and BEIs.

【注意】本 SDS は、JIS Z 7253:2019 に準拠し、作成時における入手可能な製品情報、有害性情報に基づいて作成していますが、必ずしも十分ではない可能性がありますので、取扱いにはご注意ください。本 SDS の記載内容については、新しい知見等がある場合には必要に応じて変更してください。また、注意事項等は通常の取扱いを対象としたものですので、特別な取扱いをする場合には用途・条件に適した安全対策を実施の上、お取扱い願います。